

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(耐震性についての計算書:燃料プール冷却系熱交換器等)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別, 目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申送り事項 No.51	審査会合 (R1.10.8)	-	設置許可 まとめ資料 4条	機器・配管系における手法の 変更点について	4条-別紙7-74 ~77	横置円筒容器へのFEMモデルの適用について、適用評価部位は容器(脚取付け部)以外の脚や基礎ボルトも含むのか説明すること。また、モデル化の詳細及び建設時の公式等による評価の条件、結果との比較について、詳細設計段階で説明すること。	2022/2/28 2022/10/26 2023/1/25 今回回答	設置変更許可審査では、横置円筒容器の評価部位のうち胴にFEMモデル(シェルモデル)を用いた耐震評価を行う方針としていましたが、今回工認ではJEAG4601-1987に基づく耐震評価を実施する方針に見直しました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒容器の耐震評価方法」についてJ.P.1~8	主な説明事項 【1-3】 (分類【A】)

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(耐震性についての計算書:燃料プール冷却系熱交換器等)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別, 目録番号	図書名称	該当頁					
1	2022/2/28	NS2-添2-004-07	耐震(計算書)(VI-2-4-3-1-1)	VI-2-4-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の耐震性についての計算書	P.31, 32	胴に生じる応力が最大となる個所を、FEM解析モデル図上に示して説明すること。	2022/10/26	個別の耐震計算書において、胴に生じる応力が最大となる個所をFEMモデル図上に示すよう見直しました。	NS2-添2-004-07改01「VI-2-4-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の耐震性についての計算書」P.23	
2	2022/2/28	NS2-添2-004-07	耐震(計算書)(VI-2-4-3-1-1)	VI-2-4-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の耐震性についての計算書	P.31,32	解析モデルのモデル化手法の詳細について説明すること。	2022/10/26	以前は容器の部分的なFEMモデルを用いた強度評価を実施していましたが、今回、容器全体をFEMモデルでモデル化した強度評価方法に見直しました。見直し後のFEMモデルを用いた強度評価方法については補足説明資料に示し、FEMモデルの詳細については個別の耐震計算書に記載しました。	NS2-添2-004-07改01「VI-2-4-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の耐震性についての計算書」P.18	
3	2022/2/28	NS2-添2-005-03	耐震(計算書)(VI-2-5-3-1-1)	VI-2-5-3-1-1 アクムレータの耐震性についての計算書	P.2	アクムレータを支持する架台が剛構造かどうか説明すること。	2022/10/26	架台が剛構造である旨を耐震計算書に追記しました。	NS2-添2-005-03改01「VI-2-5-3-1-1 アクムレータの耐震性についての計算書」P.2,10,25	
4	2022/2/28	NS2-添2-005-03	耐震(計算書)(VI-2-5-3-1-1)	VI-2-5-3-1-1 アクムレータの耐震性についての計算書	P.11	アクムレータの長手直交方向の固有周期の計算方法及び結果を説明すること。	2022/10/26	横方向の固有周期については、横方向の剛性が構造上長手方向及び鉛直方向の剛性より高いことから、計算を省略している旨を追記しました。	NS2-添2-005-03改01「VI-2-5-3-1-1 アクムレータの耐震性についての計算書」P.10,25	
5	2022/2/28	NS2-補-027-10-50	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法の適用方針について	P.2	応答解析手法及び応力評価手法について、JEA4601の記載内容との相違点及び既工認との相違点を明確にして説明すること。	2022/10/26	横置円筒形容器の耐震評価における強度評価は、既工認と同様にJEA4601に示されている理論式に基づいて行うことを基本とし、評価の精緻化が必要な場合にはFEMモデルを用いた強度評価を行う旨を記載しました。また、FEMモデルを用いた強度評価方法について、先行プラント(東海第二)及び島根2号機設置変更許可審査との比較結果を補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-10-50改01「FEMモデルを用いた横置円筒形容器の強度評価方法について」P.2,3	
6	2022/2/28	NS2-補-027-10-50	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法の適用方針について	P.3	JEA4601に基づく当板の考慮可否の判断について、判断のための検討内容を説明すること。	2022/10/26	当板の考慮可否の判断基準について、補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-10-50改01「FEMモデルを用いた横置円筒形容器の強度評価方法について」P.4	
7	2022/6/15	NS2-添2-005-37	耐震(計算書)(VI-2-5-7-1-4)	VI-2-5-7-1-4 原子炉補機冷却系サージタンクの耐震性についての計算書	P.14	原子炉補機冷却系サージタンクの耐震評価について、計算上必要となる静水頭の高さを説明すること。	2022/10/26	計算結果を示すページの概要図中に静水頭の高さを表す記号Hを追記しました。	NS2-添2-005-37改01「VI-2-5-7-1-4 原子炉補機冷却系サージタンクの耐震性についての計算書」P.11,14 NS2-添2-005-43改01「VI-2-5-7-2-4 高圧炉心スプレイ補機冷却系サージタンクの耐震性についての計算書」P.11,14	
8	2022/10/26	NS2-他-066改01	回答整理表	島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(耐震性についての計算書:燃料プール冷却系熱交換器等)	P.1	横置円筒形容器の耐震評価(強度評価、固有周期)について、今回既工認のFEMモデルによる評価結果と既工認の評価手法(JEA4601の計算式適用)による評価結果とを比較して説明すること。	2023/1/25	今回既工認における横置円筒形容器の耐震評価について、FEMモデル(シェルモデル)は使用せず、既工認と同様の評価手法(JEA4601適用)を用いる方針に見直しました。	—	
9	2022/10/26	NS2-補-027-10-50改01	補足説明資料	FEMモデルを用いた横置円筒形容器の強度評価方法について	P.2	横置円筒形容器の耐震評価について、Bijlaardの方法による応力算出に保守性が含まれていることを定量的に説明すること。	2023/1/25	今回既工認における横置円筒形容器の耐震評価について、FEMモデル(シェルモデル)は使用せず、既工認と同様の評価手法(JEA4601適用)を用いる方針に見直しました。	—	
10	2022/10/26	NS2-添2-004-07改01	耐震(計算書)(VI-2-4-3-1-1)	VI-2-4-3-1-1 燃料プール冷却系熱交換器の耐震性についての計算書	P.19,23	燃料プール冷却系熱交換器の耐震評価における応力の算出に適用する3次元FEMモデルのメッシュサイズの妥当性について、その根拠を含めて説明すること。	2023/1/25	今回既工認における横置円筒形容器の耐震評価について、FEMモデル(シェルモデル)は使用せず、既工認と同様の評価手法(JEA4601適用)を用いる方針に見直しました。	—	
11	2023/1/25	NS2-補-027-10-50改02	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2,5	当板を拡張することによりJEA4601(手計算)を適用することについて、設置変更許可審査、既工認との比較及び評価手法適用の考え方も含めて説明すること。	今回回答	今回既工認において、当板拡張工事を実施することによりJEA4601に基づく理論式で評価を成立させることとした横置円筒形容器について、既工認及び設置変更許可審査からの評価方法の変更内容を考え方を含めて補足説明資料に記載しました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒形容器の耐震評価方法について」P.6	
12	2023/1/25	NS2-補-027-10-50改02	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.3,4	当板の有効範囲の判定基準及びその判定結果に基づく耐震評価フローについて説明すること。	今回回答	胴の脚付け根部の有効板厚に当板の板厚を考慮可能かどうかの判定基準について、補足説明資料に記載しました。また、耐震評価フローの中に当該判定基準をどのように用いているのか分かるようにしました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒形容器の耐震評価方法について」P.4,8	

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
13	2023/1/25	NS2-補-027-10-50改02	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	既工認からの評価手法の変更の経緯について説明すること。	今回回答	今回工認における横置円筒形容器の耐震評価方法について、既工認及び設置変更許可審査からの変更内容及び経緯を補足説明資料に記載しました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒形容器の耐震評価方法について」P.6	
14	2023/1/25	NS2-補-027-10-50改02	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	当板の拡張によりJEAG式(手計算)による評価がどう変わるか説明すること。	今回回答	補足説明資料のなかに胴の脚付け根部の有効板厚を用いた応力評価式を例示し、当板の範囲が小さく、有効板厚に当板の板厚を考慮できない場合には発生応力が大きくなり、当板の範囲が大きく、有効板厚に当て板の板厚を考慮できる場合には発生応力が小さくなる旨を記載しました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒形容器の耐震評価方法について」P.2.7	
15	2023/1/25	NS2-補-027-10-50改02	補足説明資料	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.4	評価方法の適用方針について、既設/新設の分類や、構造(脚数、当板の拡張を含めた耐震補強の有無)を踏まえて説明すること。	今回回答	横置円筒形容器に適用する耐震評価方法について、既設/新設の分類や、構造(脚数、当板の拡張を含めた耐震補強の有無)との対応関係を表に示しました。	NS2-補-027-10-50改03「横置円筒形容器の耐震評価方法について」P.5	

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(耐震性についての計算書:燃料プール冷却系熱交換器等)

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
No.1～270については、NS2-他-066改02までに整理済みのため省略。						
271	NS2-添 2-005-03改03	VI-2-5-3-1-1 アキュレータの耐震性についての計算書	P.11	4.1.1 (3) 鉛直方向の固有周期の説明の明確化のため、以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 胴の鉛直方向に荷重が作用する場合の固有周期(鉛直方向振動)は、脚の形状が円形であることから、胴の長手方向に荷重が作用する場合の固有周期と同じである。 (新) 胴の鉛直方向の固有周期(鉛直方向振動)は、脚の断面形状が円形であり、鉛直方向と長手方向で脚の断面形状が同じであることから、胴の長手方向の固有周期と同じである。	2023/2/20	
272	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.2,69	表2-1 構造計画(その1)の概略構造図について、最新の構造計画を反映した図とするため適正化しました。	2023/2/20	
273	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.7,33,35～37	引用文献(2)の係数について、2.4 記号の説明では「 $k_{cj}$ 及び $k_{lj}$ 」と記載し、式中では「 $k_c$ 及び $k_l$ 」と記載していましたが、誤記であったため修正しました。正しくはばね定数算出に用いる係数は「 $k_c$ 及び $k_l$ 」であり、応力補正に用いる係数は「 $k_{cj}$ 及び $k_{lj}$ 」であるため、それぞれ正しく修正及び追記を行いました。	2023/2/20	
274	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.15, 17～20, 22,23	JEAGに例示される図をそのまま用いていましたが、計算式との整合を図るため、図の転倒方向及び力とモーメントの向きを適正化しました。また、図に紐づく文章を追記しました。	2023/2/20	
275	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.22,23	資料の分かりやすさを向上するため図4-7～4-9として鉛直方向の固有周期の計算に関係する図を追加しました。	2023/2/20	
276	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.24	4.3 固有周期の計算結果について水平方向及び鉛直方向の固有周期の記載を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧) 固有周期は、0.05 秒を超えており、柔構造であることを確認した。また、鉛直方向は2次モード以降で卓越し、固有周期は0.05 秒以下であることを確認した。 (新) 水平方向の固有周期は、0.05秒を超えており柔構造であることを確認した。また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり剛構造であることを確認した。	2023/2/20	
277	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.35	5.4.1.1 (7)のタイトルを以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)(7) 水平方向地震力(Z方向)による胴のラグ付け根部に作用する荷重及びモーメント (新)(7) 水平方向地震力(Z方向)による胴のラグ付け根部の応力	2023/2/20	
278	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.38	図5-3に紐づく文章を追記しました。	2023/2/20	
279	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.46	F01vの定義式を追加しました。それに伴い、以降の式番号を変更しました。	2023/2/20	
280	NS2-添 2-005-06改01	VI-2-5-4-1-1 残留熱除去系熱交換器の耐震性についての計算書	P.50,62	計算に必要な機器要目として、 $k_l$ , $k_c$ , $K_l$ , $K_c$ を追加しました。	2023/2/20	
281	NS2-添 2-010-08改01	VI-2-10-1-2-1-7 非常用ディーゼル発電設備 A-ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.18	4.3 (2)の記載を分かりやすくするため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(2) A-ディーゼル燃料貯蔵タンクを9質点系振動モデルとして考える。A-ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は胴の重心に集中するものとする。 (新)(2) A-ディーゼル燃料貯蔵タンクを9質点系振動モデルとする。A-ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は各質点に振り分ける。質点の高さは胴の重心に設定する。	2023/2/20	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
282	NS2-添 2-010-08改01	VI-2-10-1-2-1-7 非常用ディーゼル発電設備 A-ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.21～27,29,31～33	対象となる解析モデルの明確化のため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)解析による計算で～ (新)「4.3 解析モデル及び諸元」に示す解析モデルを用いた解析により～	2023/2/20	
283	NS2-添 2-010-09改01	VI-2-10-1-2-1-8 非常用ディーゼル発電設備 B-ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.17	4.3 (2)の記載を分かりやすくするため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(2) B-ディーゼル燃料貯蔵タンクを11質点系振動モデルとして考える。B-ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は胴の中心軸に集中するものとする。 (新)(2) B-ディーゼル燃料貯蔵タンクを11質点系振動モデルとする。B-ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は各質点に振り分ける。質点の高さは胴の中心軸に設定する。	2023/2/20	
284	NS2-添 2-010-09改01	VI-2-10-1-2-1-8 非常用ディーゼル発電設備 B-ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.20～26, 28, 30～32	対象となる解析モデルの明確化のため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)解析による計算で～ (新)「4.3 解析モデル及び諸元」に示す解析モデルを用いた解析により～	2023/2/20	
285	NS2-添 2-010-16改01	VI-2-10-1-2-2-6 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.18	4.3 (2)の記載を分かりやすくするため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(2) ディーゼル燃料貯蔵タンクを9質点系振動モデルとして考える。ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は胴の重心に集中するものとする。 (新)(2) ディーゼル燃料貯蔵タンクを9質点系振動モデルとする。ディーゼル燃料貯蔵タンクの容器及び内容物の質量は各質点に振り分ける。質点の高さは胴の重心に設定する。	2023/2/20	
286	NS2-添 2-010-16改01	VI-2-10-1-2-2-6 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備ディーゼル燃料貯蔵タンクの耐震性についての計算書	P.21～27,29,31～33	対象となる解析モデルの明確化のため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)解析による計算で～ (新)「4.3 解析モデル及び諸元」に示す解析モデルを用いた解析により～	2023/2/20	
287	NS2-添2-014-22改01	VI-2-11-2-7-7 原子炉浄化系補助熱交換器の耐震性についての計算書	目次	目次について、資料の修正に伴い、ページ数を修正しました。	2023/2/20	
288	NS2-添2-014-22改01	VI-2-11-2-7-7 原子炉浄化系補助熱交換器の耐震性についての計算書	P.13	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)組み合わせる (新)組み合わせる	2023/2/20	
289	NS2-添2-014-22改01	VI-2-11-2-7-7 原子炉浄化系補助熱交換器の耐震性についての計算書	P.16	4.3 (2)の記載を分かりやすくするため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(2) 原子炉浄化系補助熱交換器を6質点系振動モデルとして考える。原子炉浄化系補助熱交換器の容器及び内容物の質量は胴の中心軸に集中するものとする。 (新)(2) 原子炉浄化系補助熱交換器を6質点系振動モデルとする。原子炉浄化系補助熱交換器の容器及び内容物の質量は各質点に振り分ける。質点の高さは胴の中心軸に設定する。	2023/2/20	
290	NS2-添2-014-22改01	VI-2-11-2-7-7 原子炉浄化系補助熱交換器の耐震性についての計算書	P.19～21, 23～25,28, 30～33	対象となる解析モデルの明確化のため、以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)解析による計算で～ (新)「4.3 解析モデル及び諸元」に示す解析モデルを用いた解析により～	2023/2/20	
291	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	目次	目次に「3. 耐震評価方法の変更内容」を追記しました。また、「3. 結論」を「4. 結論」に見直しました。	2023/2/20	
292	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.1	記載充実等による資料の記載内容変更に伴い、「1. 概要」の記載を以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)本資料では、横置円筒形容器の耐震評価フローを示し、応答解析手法の使い分けの判断基準や、応力評価手法について説明する。 (新)本資料では、今回工認における横置円筒形容器の耐震評価方法を示し、応答解析手法の使い分けの判断基準や、応力評価手法について説明するとともに、既工認及び設置変更許可審査からの変更内容について示す。	2023/2/20	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
293	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2~5	「2. 耐震評価方法の適用方針」について、JEAG4601-1987に基づいた耐震評価を実施する旨を冒頭に記載のうへ、「JEAG式(手計算)」という記載を「理論式」という記載に見直しました。以降、資料の中で同様に記載統一を行いました。	2023/2/20	
294	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「2. 耐震評価方法の適用方針」における図1の耐震評価フローを呼び込む文章について、当該耐震評価フローは横置円筒形容器の耐震評価全体のフローであるため、以下のとおり記載を修正しました。(下線部参照) (旧)応答解析手法を整理した耐震評価フローを図1に示す。 (新)横置円筒形容器の耐震評価フローを図1に示す。	2023/2/20	
295	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「2. 耐震評価方法の適用方針」における応答解析手法の記載について、構造によって使い分けることを明確にし、脚数が2脚以下の単純構造の容器であれば、理論式により荷重及びモーメントを算出するが、脚数が3脚以上である場合や脚(底面以外)にサポートを適している場合には、はりモデルによる応答解析で荷重及びモーメントを算出する旨を記載しました。	2023/2/20	
296	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「2. 耐震評価方法の適用方針」における応力評価手法の記載について、胴の脚付け根部の応力評価においてJEAC4601-2008以降で記載されている有効板厚 $t_e$ の判定基準を用いることを記載しました。これに伴い、当板の範囲が狭く、判定基準を満たさない場合には有効板厚 $t_{el}$ に当板の板厚を考慮できないため、胴の応力の発生値が大きくなることを示し、応力評価における発生値が大きくなり、許容値を上回る場合には、当板拡張工事を含めた耐震補強工事を実施する旨を記載充実しました。	2023/2/20	
297	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「2. 耐震評価方法の適用方針」における表1を呼び込む文章について、以下のとおり簡潔な内容に見直しました。(下線部参照) (旧)図1の耐震評価フローに基づき、評価対象設備に対して耐震評価方法の適用方針を整理した結果を表1に示す。 (新)図1の耐震評価フローに基づく評価対象設備の耐震評価方法を表1に示す。	2023/2/20	
298	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「2. 耐震評価方法の適用方針」の中で、胴の応力評価における有効板厚 $t_e$ の判定基準について注記に説明を記載し、関連する規格に関する図の呼びこみを行いました。	2023/2/20	
299	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「3. 耐震評価方法の変更内容」の項を追加し、今回工認における横置円筒形容器(当板拡張工事対象)の耐震評価方法について、既工認及び設置変更許可審査からの変更内容を表2に示す旨を記載しました。	2023/2/20	
300	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.2	「4. 結論」について、必要に応じて当板拡張工事等による耐震補強も実施のうへ、JEAGに基づく耐震評価を行うこと、応答解析手法は構造に応じて理論式又ははりモデルを使い分けることを記載しました。	2023/2/20	
301	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.3	図1の耐震評価フローについて、「2. 耐震評価方法の適用方針」の修正内容と対応するよう見直し、有効板厚 $t_e$ の判定基準や板拡張工事との関連性についても記載しました。	2023/2/20	
302	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.4	表1について、各横置円筒形容器に対して、新設/既設の区分、構造上の特徴(脚数、当拡張工事を含む耐震補強有無等)といった情報を記載したうへで適用する耐震評価方法を示す構成に見直しました。	2023/2/20	
303	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.5	表2について、今回工認における横置円筒形容器の耐震評価方法の既工認及び設置変更許可審査からの変更内容を示す構成に見直しました。	2023/2/20	
304	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.6,7	胴の応力評価における有効板厚 $t_e$ の判定基準について、規格の関連箇所を抜粋を図2及び図3として追加しました。	2023/2/20	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
305	NS2補足-027-10-50改03	横置円筒形容器の耐震評価方法について	P.8	当板拡張工事による評価成立性を確認する旨を記載し、図4に当板拡張工事の概要を示す図を追加しました。	2023/2/20	